

登録速報（新規登録）

農 薬 名：ザクサ液剤

登 録 番 号：第22901号

新 規 登 録 日：平成23年3月15日

【適用雑草の範囲及び使用方法】

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	ゲルシート及びゲルシートIPを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量			
果樹類 (かんきつ、りんご、びわ、いちょう(種子)、くり、キウイフルーツを除く)	—	一年生雑草	収穫前日まで (雑草生育期 草丈 30cm 以下)	300～500 mL/10a	100～ 150 L/10a	3回以内	雑草 茎葉散布	3回以内
		多年生雑草		500～750 mL/10a				
かんきつ		一年生雑草	収穫 21 日前まで (雑草生育期 草丈 30cm 以下)	300～500 mL/10a				
		多年生雑草		500～ 1000mL/10 a				
りんご		一年生雑草	収穫 21 日前まで (雑草生育期 草丈 30cm 以下)	300～500 mL/10a				
		多年生雑草		500～750 mL/10a				
びわ		一年生雑草	収穫 21 日前まで (雑草生育期 草丈 30cm 以下)	300～500 mL/10a				
		多年生雑草		500～750 mL/10a				
いちょう (種子)		一年生雑草	収穫 14 日前まで (雑草生育期 草丈 30cm 以下)	300～500 mL/10a				
		多年生雑草		500～750 mL/10a				
くり		一年生雑草	収穫 30 日前まで (雑草生育期 草丈 30cm 以下)	300～500 mL/10a				
		多年生雑草		500～750 mL/10a				
キウイフルー ツ		一年生雑草	収穫 21 日前まで (雑草生育期 草丈 30cm 以下)	300～500 mL/10a				
		多年生雑草		500～750 mL/10a				

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	ゲルネット及びゲルネットIPを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量			
なす トマト ミニトマト	適用場所	一年生雑草	収穫前日まで (雑草生育期 定植前又は畦 間処理)	300～500 mL/10a	100～ 150 L/10a	3回以内	雑草 茎葉散布	3回以内
メロン			収穫30日前まで (雑草生育期 定植前又は畦 間処理)			2回以内		2回以内
キャベツ			収穫45日前まで (雑草生育期 定植前又は畦 間処理)					
ほうれんそう			収穫7日前まで (雑草生育期 は種前又は畦 間処理)					
水田作物	—	—	耕起15日前まで (雑草生育期 草丈30cm以下)	500 mL/10a	100 L/10a	1回	—	1回
水田作物 (水田畦畔)	水田畦 畔	一年生雑草 多年生雑草	収穫7日前まで (雑草生育期 草丈30cm以下)	500～ 1000mL/10a	100～ 150 L/10a	2回以内	—	2回以内
樹木類	—	一年生雑草	雑草生育期 (草丈30cm以下)	300～ 500mL/10a	—	3回以内		3回以内
樹木等	公園 庭園 堤とう 駐車場 道路 運動場 宅地 のり面 鉄道 等	一年生雑草	雑草生育期 (草丈30cm以下)	500～1000 mL/10a	100～ 200 L/10a	3回以内	—	3回以内
		多年生雑草		1000～2000 mL/10a				

【使用上の注意事項】

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 散布直後の降雨は、効果を減ずるので、天候をよく見きわめてから散布すること。
- (3) 雑草の生育期に有効であるが、雑草が大きくなりすぎると効果が劣るので時期を失しないように、薬液が雑草全体によく付着するようにていねいに散布すること。
- (4) 植物に薬液が付着すると薬害を生ずるので散布液が付近の農作物、樹木の茎葉に飛散しないように散布すること。特に野菜類の生育期畦間散布で使用する場合は作物にかからないように十分注意して散布すること。

- (5) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (6) 散布液を調製した容器及び散布器具は使用后十分に洗っておくこと。
- (7) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
- (8) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法】

- (1) 原液は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。
付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- (5) 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- (6) 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管すること。

【水産動植物に有毒な農薬については、その旨】

水産動植物（魚類）に影響を及ぼす恐れがあるので、養魚田周辺での使用には注意すること。

【引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨】

通常の使用方法ではその該当がない。

【貯蔵上の注意事項】

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。